

和歌山大学における地域連携の取組について



和歌山大学 栄谷キャンパス

PICK UP

和歌山大学の地域連携方針

和歌山大学は「地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造」を目指し、学びの成果を地域社会に拡げ、教育研究成果を社会実装することで、持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでいます。

2020年4月に設置した「紀伊半島価値共創基幹(Kii-Plus)」は、地域連携を推進する組織として、共創に重点をおき、地域の課題解決、地域の事業発展、地域の価値向上に取り組んでいます。

また、「産学連携イノベーションセンター」では、民間企業や自治体をはじめとする公的機関等と課題を共有し、一体となって研究・事業に取り組み、産業の発展や新たな産業創出につながる知的価値を共創できる人材の育成に取り組んでいます。

大学の研究者



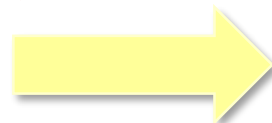
■ 主な研究内容

宇宙政策／開発、宇宙教育、安全システム、準天頂衛星防災利用、固体惑星科学

イノベーションイニシアティブ
基幹共同利用共同研究推進室
秋山 演亮 教授

※研究者の経歴等は
(URL: https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp/html/100000696_ja.html)をご参照下さい。

デジタル技術の活用 (装置・デバイス)



地域連携事例集にも掲載されています。

地域課題解決に向けた活用例

■ 活用分野

防災・防犯、交通(航空)、宇宙、農林水産業、観光、教育(宇宙・科学)

■ 活用例

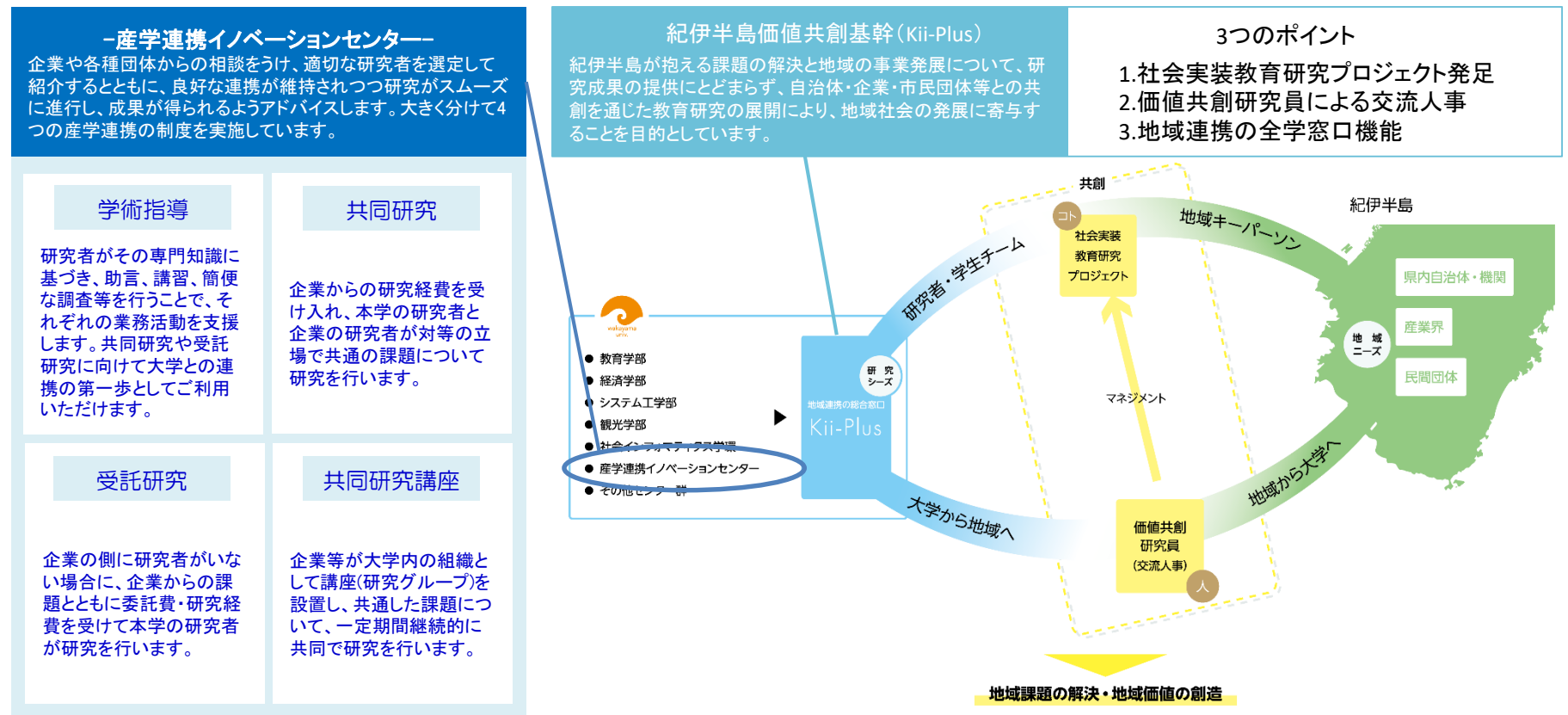
IoTを利用した簡易で安価な水位計システムを利用した土砂災害対策

地域との連携形態について

地域との連携形態

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹では、地域連携の全学窓口機能を担うとともに、地域課題・ニーズを大学に持ち込んで共に研究・プロジェクトを進める「価値共創研究員」制度を導入しています。

また、産学連携イノベーションセンターでは民間企業や自治体をはじめとする公的機関等と課題を共有し、契約に基づき、大学が研究資金を受入れるかたちで、研究を行っています。企業や各機関の方々にとっては得られた成果の業務や活動への活用、また大学にとっては研究・教育の活性化という、互いにとっての利点が期待されます。



参考URL: 紀伊半島価値共創基幹 <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/>
産学連携イノベーションセンター <https://www.wakayama-u.ac.jp/cijr/>

地域との連携実績について

地域との連携実績

本学では、和歌山県内及び大阪南部地域の12の市町村と連携協定を締結し、地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造を目指すとともに、地域との共創事業や「社会実装」プロジェクトの展開、価値共創研究員の受入、受託事業などで地域課題に即応しています。

過去5年の連携実績

年度	件数	主な連携事例
2023年	31件	和歌山県紀美野町と大学は、2016年に連携協定を締結し、相互協力のもと紀美野町の地域づくりに取り組んできた。今年度には、これまでの取組の裾野を広げ、若者が紀美野町で暮らすことを考えるきっかけをつくり、また地域で「なりわい」を創業しようという若い世代を応援する人材育成の仕組みとして「きみの地域づくり学校」をスタートさせました。
2022年	63件	共創の場形成支援プログラム(国立研究開発法人科学技術振興機構)「ビヨンド・”ゼロカーボン”を目指す”Co-JUNKAN”プラットフォーム研究拠点(研究代表:東京大学未来ビジョンセンター)の一環として、和歌山県及び株式会社秋津野などと共創し、「地域資源循環型プロジェクト」を立ち上げた。Co-learning実践・実証、交通、エネルギー、農林業DX、エネルギー需給構造など、ビヨンド・”ゼロカーボン”に不可欠な技術システムの開発・地域実証などに取り組んでいる。
2021年	55件	地場産業を活性化し安定した雇用創出・地域経済の浮揚が課題となっていた和歌山県由良町との共創事業として、若い学生のアイデアを広く募集し課題解決につなげるための「地域課題解決型事業活動プランコンテスト」を開催した。和歌山大学の学生だけではなく、全国の大学・大学院・高専・専門学校に応募を呼びかけ、結果、39件の応募があり、様々なアイデアが寄せられた。
2020年	36件	グローバル化が進み、日本で暮らす外国人が増えていることに伴い、外国につながる子どもたちの数も増加、多様化している。その子どもたちの教育支援の在り方は、地域社会でも課題となっていることから和歌山市の協力・支援のもと、外国につながる子どもたちに対して、日本語を支援し、同時に、アイデンティティ危機に陥らないように母語支援するプロジェクトを立ち上げ、同市内の小学校などで展開した。また、教育支援ツールとして「やさしい日本語・防災ハンドブック」を製作、学校等に配布。生活する外国人や技能実習生が多い企業にも活用された。
2019年	22件	有田川町の地方創生事業「アニメの世界とボクらの未来プロジェクト」に協力し、6名の学生たちが有田川町を視察。その後タウンミーティングに参加し、日本におけるアニメや漫画の現状、和歌山県とポップカルチャー、有田川町とポップカルチャー、日本のポップカルチャーのこれから、コンテンツツーリズムの可能性等について、地元住民とともに議論した。

連絡先

和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹(Kii-Plus)

TEL:073-457-7127

Mail:region@ml.wakayama-u.ac.jp